

NPO法人 神岡・まちづくりネットワーク（飛騨市）

中心市街地

自然・歴史・コミュニティ

取組の背景

（飛騨市神岡町の概要）

飛騨市神岡町は、岐阜県の最北端に位置し飛騨山脈とその支脈に囲まれ、乗鞍岳に源を発する神通川水系高原川が市街地を南北に貫流する自然豊かな町である。

養老年間に鉱山が発見され明治7年に三井財閥が経営を始めて以来、鉱山事業を核として企業城下町が形成され、昭和35年には人口が2万7千人に達するなど大きく栄え発展してきた。しかし、鉱山の採掘が縮小され、平成13年ついに全面的に採掘中止となり、中心市街地も、町外資本の大型店舗の進出や富山市、高山市への顧客流出によって急激に衰退している。また、公共事業の大幅な減少によって、町の基幹産業の一つである建設業においても廃業する企業がでるなど、地域雇用環境も深刻さを増している。人口は約1万1千人まで減少し、少子高齢化の波とも重なって65歳以上の人口が約3割に達しようとしているなど、急速な人口減少に歯止めが効かない状況となっている。

（NPO法人設立の経緯）

神岡町観光協会の発案により「神岡町夢づくりがやがや会議」が開催され、そこで出された約3,000項目のアイデアを集約した「神岡町市街地活性化構想」が策定された。その活性化構想を具体的に進めていく受け皿団体として「NPO法人神岡・まちづくりネットワーク」（平成14年10月16日）を設立し、過疎の町を観光によって活性化させるため、「2012年交流人口50万人」を目標に、まちづくりに関する調査研究や各種セミナーの開催など、地域の自然や歴史を活かしたコミュニティづくりに取り組むこととなった。

取組の概要

（NPO法人 神岡・まちづくりネットワーク）

会 員：110人

代 表：鈴木進悟（設立当初から理事長就任）

活動内容：「がおろ（河童）の道」の維持管理、まちづくりに関する調査研究及び提言、セミナー等の開催事業、イベントの企画開催事業、他団体との交流、連携及び協力事業、町並景観に関する調査研究、自然環境保全を図る事業

活動経費：年会費を徴収（個人会員：5,000円、団体会員：10,000円）
約70万円の年会費は、主におおろの道の維持管理費として使用

取組の内容

- 平成13年3月
「神岡町夢を語る会」発足（神岡町観光協会）
- 平成14年
「神岡町夢づくりがやがや会議」の開催
約3,000項目のアイデアを集約した「神岡町市街地活性化構想」を策定
「ふるさと散策の道」を地図化
(主な内容)
 - ・観光ルート作り
歴史ウオーク、街並みウオーク、カントリーウオーク、がおろ（河童）の道、トロッコ列車等の散策道整備
- 平成14年5月
「神岡町市街地活性化構想」を緊急都市再生プロジェクトとして内閣府へ提案
(主な内容)
 - ・観光の目玉作りを総合的にデザイン
高原川狭谷沿いの散策、高原川でのラフティング・溪流釣り、神岡鉄道によるトロッコ列車、中心市街地での町並み散策（水屋、土蔵、神社等）、特産品販売コーナーの設置
 - ・施設整備
散策ルート、吊り橋、ラフティング乗降場、駐車場、公園、トイレ、トロッコ列車の購入
 - ・観光案内、公園ガイドの配置
自然保護活動ガイド、安全管理等を目的としたリバーパークレンジャーの設置
- 平成14年10月
「NPO神岡・まちづくりネットワーク」設立
がおろの道の維持管理や神岡町市街地活性化構想の具体的推進のための受け皿団体として設立
- 平成15年
「がおろ（河童）の道」作りを計画
高原川の両岸に散策道を整備し、観光周遊ルートの一部として位置づけることを計画
商工会議所、神岡鉄道、地元ボランティア、国土交通省、飛騨市（神岡町）、岐阜県が協力

○平成 15～16 年

「がおろ（河童）の道」（左岸）の整備
ボランティア 1,300 人の参加により整備

○平成 17 年

「がおろ（河童）の道」（右岸）の整備
岐阜県ひだ・みの景観作り賞を受賞

神岡町は、歴史・自然・文化等の観光資源が多く存在しているが、高原川沿いに点在しており観光資源として有効に活かされていない。それらの点在する資源を散策道整備や景観整備により総合的に結ぶことで、町全体が観光散策空間として活かされ交流人口の増加に繋がる。さらには、自然、歴史、文化、サイエンス、鉱業、鉄道、農林業を有機的に結合しオンリーワンの観光産業を構築することで、中心市街地を再生させ神岡町独自の賑わいと活気ある町づくりが図られる。



「がおろの道」の整備

成果

○ふるさと散策の道（がおろの道）を整備

点在する歴史・自然・文化等の資源を散策道整備により総合的に結び、町全体を観光散策空間として活用

○飛騨市（神岡町）「まちづくり整備事業」との連携 神岡町市街地活性化構想を官民で共有 （経緯）

- ・平成 14 年度 「神岡町中央地区まちづくり構想」作成
- ・平成 15 年度 「まちづくり総合支援事業」事業開始
- ・平成 16 年度 「山と水の都神岡建築デザインガイドプラン」作成
- ・平成 17 年度 「街なみ環境整備事業」事業開始

成果の要因

○町再生意識の高揚

- ・若年者の転出、少子高齢化、市街地の空家の

増加等人口減少への危機感

- ・高原川を中心とした多彩で豊富な観光資源価値の認識
- ・地域（高原川）への愛着
等が要因となり、地域住民が、町づくりのアイデアを出し合い神岡町市街地活性化構想を策定し、構想の実現に向け行政と民間が協働し活動してきたことが成功の要因と考えられる。

今後の課題

○観光スポットの整備

高原川の河川流域や歴史に富んだ街並みを活かして観光スポットを整備し、鉱物資源の街から観光資源の街へと転換が必要である。財政状況が厳しい中、官民が一体となった町づくりを進めていく必要がある。

○観光スポットのPR

観光資源のPR活動や観光案内人の設置が必要である。

○組織体制の強化

運営経費の不足により事務員を設置できない等活動に支障をきたしているため、組織体制の強化が必要である。

行政への期待

○市街地アクセスの強化

国道 41 号から市街地へのアクセスルートとして、朝浦バイパスを整備してほしい。

○吊り橋の整備

観光のための周遊ルートやスポットとして、高原川に吊り橋を架設してほしい。

○デッキ歩道整備のためのアドバイス

観光のための周遊ルートとして、高原川沿いにデッキ歩道の整備を検討している。しかしながら、設置箇所が河川区域内であるため河川管理者から許可が下りない。どのような手法であれば整備可能となるかをアドバイスしてほしい。

この人にお話をうかがいました！

NPO法人 神岡・町づくりネットワーク
理事長 鈴木進悟さん

調査日：平成 18 年 1 月 7 日（火）

調査者：飛騨振興局 梅本、飯島